

私を憐れんでください、神様。 あなたの慈しみをもって。
深い憐れみによって
背きの罪をぬぐってください。
私の罪をすべて洗い、清めてください。
私を洗ってください。雪よりも白くなるように。…
神様、私の心に清い心を創造し、
新しく、豊かな霊を授けてください。（詩篇51の3～12より）

Have mercy on me, O God, in your faithful love,
in your great tenderness wipe away my offences;
wash me clean from my guilt, purify me from my sin.
Create in me a pure heart, O God, and renew a steadfast spirit within me.

この詩は、原文では、上記のように私を憐れみたまえ、という心からの叫びからはじまっている。この私を憐れんでください！という言葉は、旧約聖書の詩では10数回現れることからわかるように、はるかな古代—いまから3000年ほども昔から、神への深い祈りの表現だった。

「神よ、私を憐れんで下さい」原語のヘブル語では、ホナーニ エローヒーム、新約聖書のギリシャ語では、これはキューリエ エレーソン（主よ憐れんで下さい）となる。この短いひと言の叫びのなかに、さまざまの苦しみや悲しみからの叫びがすべて込められている。（ホナーニとエレーソンは、（私を）憐れんで下さい、エローヒームは、神、キューリエは 主よ を意味する）

私たち人間は、生きていく過程で、人間の力ではどうすることもできない苦しみ、悲しみが生じることを思い知らされる。ただ必死に祈り、叫ぶしかできない。そのときの心からあふれるように出てくる祈りが、この「神様、憐れんでください、あなたの愛によって」である。

新約聖書の時代となって キリストが各地を歩まれたとき、らい病をわずらっている10人が、遠くに立ち止まったまま、声を張り上げて、「イエスさま、どうか、わたしたちを憐れんでください」と叫んだこと、道端で物乞いをしていた盲人が、通りかかった主イエスに向って、「私を憐れんでください！」と叫んだとき、先に行く人々が叱りつけて黙らせようとしたが、ますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。（ルカ福音書17の13、18の13、39など）

このように、この叫びは、当時は最も恐れられていたハンセン病の人たち、また罪のさばきの結果だと見なされて、見下され、何もできないでただ道端で乞食をするだけしかできなかった盲人の人たちの主イエスへの叫びとして繰り返し記されている。彼らの苦しみは、病気や障がいそのものから苦しみとともに、人々から見捨てられ全くの孤独となっていた精神的な絶望であり、それはどこにも持っていくことのできないものだった。しかし、その悲しみや苦しみは、ただイエスだけがわかってくださる、癒してくださることを、不思議な直感で感じ取っていた。彼らは、長い歳月にわたる、苦しみと悲しみのすべてをこのひと言に託して、叫んだのであった。このような叫びは、その重要性のゆえに、ミサ曲には この「キューリエ エレーソン」が含まれて、繰り返し祈りをもって歌われている。

今回取り上げた詩篇の言葉、それは人間の根本問題としての心の問題、どうしても正しいことができず、真実たりえないこと、愛のある心が持てないこと等々—罪への苦しみとそこからの清めを心から願っているのが示されている。雪よりも白くしてください—この願いには、限りなく清いものを切実に愛し求める心情が、数千年の歳月を越えて伝わってくる。そしてそのような清い心は神によって罪赦され、清められ、さらに、そのような清い心を創造していただき、神の清い霊を注がれてはじめて与えられることを深く知っていたのであった。

このような天来の清いもの—それは私たちすべてが求めるべきことであるゆえに、神は大空全体に決して汚されることなき輝きとして星の光を、また地上にはさまざまの清い自然の姿、また花々を創造されたのである。



この白い花、語りかけるようにして咲いています。右の写真に見えるように葉が丸くイチョウのようだというところからこの名前があります。下の花は、花が開く直前のようなようです。この花を撮影したのは、秋田県と岩手県にまたがる乳頭山（標高1478m）への登山道の湿原です。

この山は、奥深い山で、一般の登山者もごく少なく、秋田駒ヶ岳の登山道入口からさらに奥へとだいぶ車で走ったところから登りますが、その登山口の標識さえもなかったもので、あちこち歩いて探しても見つからず、付近の温泉旅館にたずねて初めてわかったものでした。それだけに、数時間その登山道、縦走路を歩いたにもかかわらず、まったく人に会わなかった静かな山で、神の創造された自然の清い姿にずっと接して心まで清められる思いでした。

この花は、中部の山岳地域から 東北、北海道にかけての高山に見られるものなので、北海道の南西部にある瀬棚地方にての聖書の学びの集りに呼ばれるまでは、見ることのなかったものです。瀬棚からの帰途、時間の許す範囲で、途中の山々に登り、こうした高山にのみ咲く花々とも接する機会が与えられたのです。

—私を洗ってください、雪よりも白く—というみ言葉、高山に咲く白い花々は、そうした神の国の清い世界への招きをつよく感じさせてくれる植物です。

（文、写真ともT. YOSHIMURA）